

# 伊藤若冲がデジタルに



Nirvana  
チームラボ, 2013, アニメーション, 6min 20sec (9:16 x 8)

<http://www.team-lab.net/all/pickup/nirvana.html> <http://youtu.be/J5aGNryim5c>

**本** 作品は、伊藤若冲の「鳥獣花木図屏風」や「樹花鳥獣図屏風」をモチーフにしたアート作品。伊藤若冲(1716-1800)は、近世日本の画家の一人。江戸時代中期の京にて活躍した絵師。若冲は、升目画などと呼ばれる、画面全体を数万もの枡の形に区切って、升目ごとに彩色する特異な表現方法を残している。それは、どこか、コンピュータの

性能の制約でできあがったデジタル表現のドット絵に通ずるところがある。若冲の升目画は、西陣織(京都西陣で織られる伝統的工芸品の高級絹織物)の制作工程のためにあった正絵に触発されたか、もしくは西陣織を

織るために描かれたのではないかとの説がある。ドット絵も、美術的な理由ではなく、機能的理由で生まれたのだが、機能的理由がなくなった現在でも、表現の一方として愛されている。若冲の升目画に、直感的に

感じるデジタル感とは、そんなことなのかもしれない。升目ごとに彩色した特異な表現は、1つの升目ごとに何種類かの色彩によって四角の中に四角が描かれており、印象主義や点描主義よりも以前から、視覚混合の光学現象を知っていた表現しているかのように見える。全体を見た時の、視覚混合による鮮やかに輝く色彩。近くで凝視した時の、細かい升目ごとに何重にも四角の中に四角を描いたディーテールのおもしろさ。画角上の升目が動かない中で、空間が動くことにより何重にも細かく描かれた升目の中の四角の色が変化していくという新しい表現。そういうものを、FHD(フルハイビジョン)の8倍の解像度による圧倒的情報量のアニメーションで表現している。

## 佐賀県立美術館

住所/佐賀市内1-15-23  
TEL / 0952-24-3947  
開館時間 / 9:30-18:00 休館日/月曜日

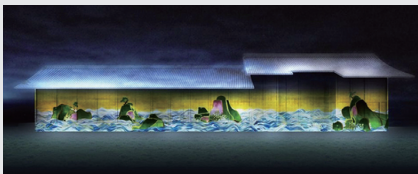
展示作品 「憑依する滝」 [Nirvana]  
「追われるカラス、追うカラスも追われるカラス、そして分割された視点 - Light in Dark (work in progress)」

### チームラボ × 佐賀といえば...

昨年10月、佐賀城本丸歴史館で開催されたチームラボによるプロジェクションマッピングイベントが記憶に新しい。



The Waterfall on Saga Castle / 佐賀城の滝  
チームラボ, 2013, デジタルインスタレーション, 3min, 音楽: 高橋英明



百年海図巻 佐賀城 Ver.  
チームラボ, 2013, デジタルインスタレーション, 10min, 音楽: 高橋英明



## teamLab★ チームラボと佐賀 巡る! 巡り巡って 巡る展

teamLab and Saga Merry-go-round Exhibition

4会場同時開催

### 国内初 チームラボ作品の大規模な展覧会

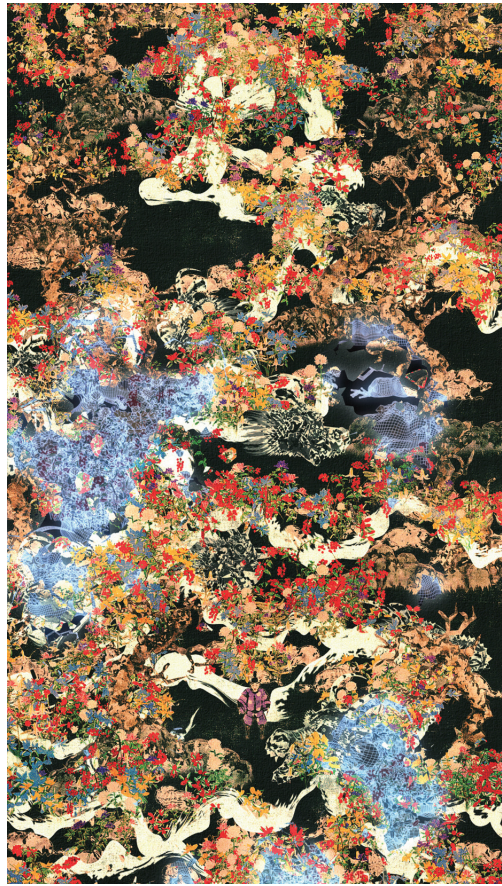
あのチームラボが佐賀に帰ってくる! 昨年10月に開催された「佐賀城本丸3Dプロジェクションマッピング」を手掛け、来場者を魅了したチームラボ。昨年10月から今年の2月までシンガポールで開催されたアートの祭典「シンガポールビエンナーレ2013」でも高い評価を得て、今や世界を代表するアーティスト集団だ。そのチームラボの新作を含む、代表的なデジタルアート全10作品を展示する、国内初の大規模な展覧会「チームラボと佐賀巡る! 巡り巡って巡る展」が佐賀県内4会場(佐賀県立美術館、佐賀県立九州陶磁文化館、佐賀県立名護屋城博物館、佐賀県立宇宙科学館)で開催される。世界初展示の新作から国内初展示作品など、チームラボの魅力に酔いしれること間違いなし。ぜひ、チームラボ作品を各会場で触れる「アートで巡る佐賀の旅!」に出掛けよう。

- 会期/平成26年2月28日~3月22日
- 会場/佐賀県立美術館 / 佐賀県立九州陶磁文化館 / 佐賀県立名護屋城博物館 / 佐賀県立宇宙科学館
- 料金/ (各館券) 一般 500円 各会場1会場の観覧料となります。  
(全館共通券) 1200円 各会場全ての作品が観覧できます。  
※ 高校生以下及び障害者の方は無料
- 主催/佐賀県 ■共催/読売新聞社、FBS福岡放送、RKB毎日放送、STSサガテレビ、佐賀新聞社
- 特別協力/ソニー株式会社 ■企画協力/チームラボ
- お問い合わせ/佐賀県文化・スポーツ部文化課 TEL: 0952-25-7236 (8:30~17:15 平日のみ)

佐賀県  
<http://www.pref.saga.lg.jp/>







花と屍 剥落 十二幅対 / Flower and Corpse Glitch Set of 12  
 (チームラボ, 2012, デジタルワーク, 1min 50sec (9:16 x 12))  
<http://www.team-lab.net/all/pickup/fcglitch.html>  
<http://youtu.be/AY0wSbTbenY>

# 見たことのない 世界へいざなう

**目** 本の先人達がどのように世界を捉えて、空間を認識していたか、「超主観空間」のコンセプトのアニメーション作品。3次元空間上に立体的に構築した世界を、日本の先人達の空間認識によって、論理的に平面化している。自然と文明の衝突、循環、共生をテーマにした絵物語の12幅からなるアニメーション作品。アニメーションの表面が剥がれ落ち、作品の裏側が見えていきます。

## 佐賀県立名護屋城博物館

住所 / 佐賀県唐津市鎮西町名護屋 1931-3  
 TEL / 0955-82-4905  
 開館時間 / 9:00-17:00 休館日 / 月曜日

展示作品 「花と屍 剥落 十二幅対」  
 「増殖する生命 (work in progress)」



まだ かみさまがいたるところにいたころのものがたり / Story of the Time when Gods were Everywhere  
 (紫舟 + チームラボ, 2013, インタラクティブデジタルインスタレーション, 書: 紫舟, 音楽: 高橋英明)  
<http://www.team-lab.net/all/pickup/stgse.html> <http://youtu.be/7uwNffijqJI>

# 大人も 子どもも 夢中

## あ

あなたの影が文字に触れると、その文字がもつ世界が表れ、物語を創っていきます。文字から生まれたものたちは、互いに、そしてあなたにふりまいるにも、影響します。

古代、森、草原、山、川のいたるところに神々が宿っていたころ、人々が神々と交信する手段として象形文字が生まれたと言われています。文字を通して、あなたが呼び出した世界とまわりの人々が呼び出した世界は、連続し、互いに相互作用を与えながら、そして、あなたやまわりの人々のふるまいにも影響を受け、世界の物語は創られていくのです。

物語の世界の裏側には、360度広がる空間があり、文字から生まれたものたちは、空間上のそれぞれの位置や、それぞれが持つ知能や関係性、物理的な影響などによって、互いに影響を受け合いながら、そして、鑑賞者の位置やふるまいにも、影響を受けながら、空間上でリアルタイムに計算されて動いたり変化したりしていきます。現実には、同じ物語が2度とないのと同じように、作品の物語は、二度と再現されることはなく、常に初めて体験する物語を創り出します。

team Lab Stampally

チームラボ  
スタンプラリー



期間中全ての会場を巡りスタンプを集めると、特製のプログラムステッカー(数量限定)がもらえます。さらに抽選で、キャンパスに虎をデジタルプリントした作品が当たります。

## 佐賀県立宇宙科学館

住所 / 佐賀県武雄市武雄町永島 16351 TEL / 0954-20-1666  
 開館時間 / 9:15-17:15 ※ただし土・日・祝は、18:00まで  
 休館日 / 月曜日

展示作品 「メディアブロックチェア」  
 「まだ かみさまがいたるところにいたころのものがたり」

# 書からひもとく生命

## 新

新たな解釈で空間に立体的に再構築した書「生」から、生命が溢れだす様子を3次元で描き、その表面を剥がしている。

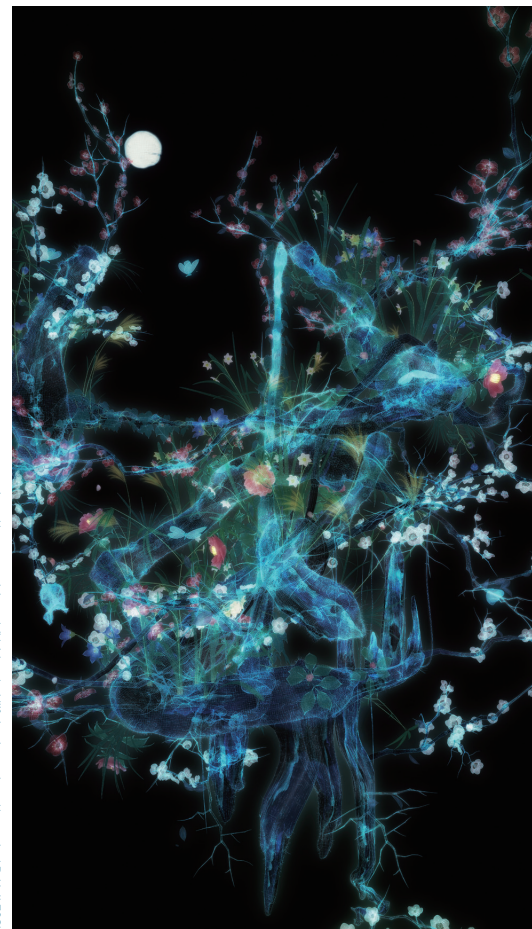
コンピュータでは、3次元の物体の形状を、網目状の線の構造で記述された抽象的で高次の情報で表現される。つまり、3次元で描かれているものは、その表面を剥ぐと、網目状の線の集合でできている。表面を剥いだ状態、つまり構造で記述された抽象的で高次の情報の状態のまま表現した作品。

今回はUltra HD (4K)の解像度(Full HD 4枚分)によって、超微細まで描いた映像作品として、表現されている。

## 佐賀県立九州陶磁文化館

住所 / 佐賀県西松浦郡有田町戸約乙 3100-1 TEL / 0955-43-3681  
 開館時間 / 9:00-17:00 休館日 / 月曜日

展示作品 「冷たい生命」  
 「世界はこんなにもやさしく、うつくしい」  
 「生命は生命の力で生きている」



【国内初展示】冷たい生命 / Cold Life  
 (チームラボ, 2014, デジタルワーク, 2160x3840 pixels, 7min 15sec (ループ), 書: 紫舟)



プロフィール

**いのこ・としゆき** ウルトラテクノロジスト集団「チームラボ」代表。1977年、徳島市出身。2001年東京大学工学部計数工学科卒業と同時にチームラボ創業。大学では確率・統計モデルを、大学院では自然言語処理とアートを研究した。TBS「情熱大陸」などテレビ出演多数。

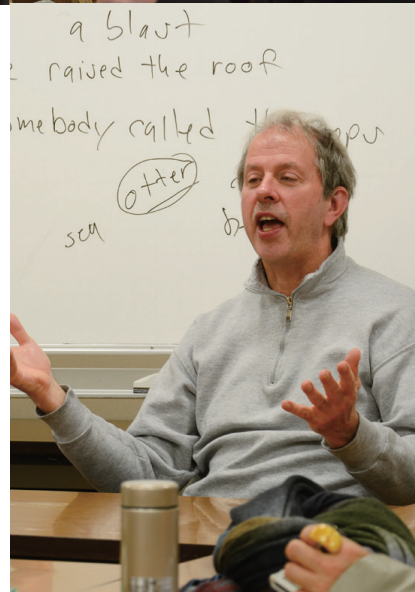
**チームラボ** 2001年に設立。日本テレビや任天堂、ホンダなどの大手企業のweb開発を担当。12年、国立台湾美術館にてチームラボ「We are the Future」展を開催。13～14年「シンガポールビエンナーレ2013」にて、「秩序がなくともピースは成り立つ」を展示し、シンガポール最大の新聞『THE STRAITES TIMES』の一面を飾るなど、アート作品の制作にも力を入れる。ILC（国際リニアコライダー）の招致を目指す佐賀県と福岡県の依頼で制作されたプロモーション映像「脊振 ILC ハイスクール!」が第17回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門の審査委員会推薦作品となった。

**難** 解とされる現代アートを、誰もが楽しめる体験にする、ウルトラテクノロジスト集団「チームラボ」。その作品には体験する人の心をウキウキさせる仕掛けに溢れている。代表・猪子寿之さんに、制作の秘訣や、大好きな佐賀への提言を聞いた。



特集

佐賀新聞文化センターは面白い!!



チームラボ展で脳バキバキに!!!

必死の姿勢 印象的

Q 佐賀新聞文化センターは「好奇心で人生面白く」というスローガンのもと現在会員約4000人、400講座を実施している。見学した感想は?

「いろんなことを学ぶことで、みんなイキイキしているように感じました。カラオケの講座を見学しましたが、先生の指導をきちんとメモをとっていたり、必死に取り組んでいる様子が印象的でした。」

Q 児童教室も見ても良かったが、猪子さんは小さいとき、どのような勉強をしていたのか?

「小学4、5年生から近所の学習塾に通っていました。学校を引退した名物おばあちゃん先生が自宅の広間でやっていた塾です。問題を解いて先生に持っていると思ったら丸をもらえる。厳しかったですが、通っていた小学校のやんちゃな雰囲気も苦手だったので、自分の居場所を見つけたような感じでした。近くの小学校から30〜40人通っていたので、塾が終わってから一緒に遊んだりしていました。」

Q 猪子さんが代表を務める「チームラボ」の仕事は先端技術を使って、みんなが「面白い」と感じる表現に取り組んで



いると思う。それはなぜか？  
——面白いことを追求しているわけでは  
ありませんが、何か価値の高いことをや  
りたいという思いはあります。我々の仕  
事の多くはクライアントから依頼されて  
始まります。その場合の成功とは、流行つ  
たり、話題になることです。そのため  
は、たくさんの人に伝わるのが重要な  
なり、結果として面白いことが必要にな  
ります。

### 直感的に伝える

Q 昨年、「インタラクティブ！プロジェクト」  
クシオンマッピング!!@佐賀城ー！チー  
ムラボ☆トランポリン大砲で、びよん  
びよん飛んで、いろいろぶっ放せ！の巻」  
が佐賀城本丸歴史館で開催された。チー  
ムラボのアート作品は、難解とされる現  
代美術の世界の中でも、直感的に楽しめ  
る。

——チームラボのアート作品の根底に  
も、概念的で小難しいコンセプトがあり  
ます。個人的な好奇心や知りたいことを  
突き詰める。それが核になっています。  
でも最終的な表現は、いろんな人が見て  
美しかったり、触って楽しかったりしな  
いといけない。そこまで持つてこない  
とコンセプトは伝わらないと思っていま



追われるカラス、追うカラスも追われるカラス、そして分割された視点 - Light in Dark (work in progress)  
Crows are chased and the chasing crows are destined to be chased as well - Division in Perspective  
チームラボ, 2013, デジタルインスタレーション, 3min 40sec, 音楽: 高橋英明  
[http://www.team-lab.net/all/pickup/teamlab\\_saga.html](http://www.team-lab.net/all/pickup/teamlab_saga.html) <http://youtu.be/O7AgOfAcL0w>



す。  
深いところから始まって直感的に伝え  
ることに気を配っています。すごくマニ  
アックな根源的なところに興味がなく  
も、なんとなく伝わる。逆に深さがな  
いと、面白さの強度が生まれません。カ  
ラオケの受講生のように必死でやらない  
いけない。でも、すごく深いところから  
スタートしているので、独りよがりにな  
りかねない。みんな興味がないかもしれ  
ない、と醒めた感覚でプロジェクトを見  
ることも必要です。

### アニメの空間を体験

Q 2月28日から佐賀市の佐賀県立美術  
館など県内4会場で「チームラボと佐賀  
巡る！巡り巡って巡る」展が開催される。  
同展に出品される作品を例に、具体的に  
創作方法を解説してほしい。

——今回の個展は目玉だらけといってい  
いですが、その中でも、佐賀県立美術館  
に展示される「追われるカラス、追うカ  
ラスも追われるカラス、そして分割され  
た視点-Light in Dark(work in progress)」  
に注目してほしいです。この作品の元々  
のコンセプトは「日本アニメ特有の特異  
な空間表現を、論理的に三次元でも表現  
できるか」というものです。アニメ「超

時空要塞マクロス」でのスピーディーで  
アクロバティックな戦闘シーンを思い浮  
かべて頂くと良いと思います。さらにア  
ニメの空間表現を小さいディスプレイで  
はなく、実際の空間に再構築したいと考  
えました。

「追われるカラス」の原型となる作  
品は、2008年にさかのぼります。ま  
ずは巨大ディスプレイ一枚に映し出し  
ました。実験を重ねて、12枚のディスプ  
レイを使用したところ、映像がぐわつと  
うごめき、見ているとちょっとパニック  
になるぐらい衝撃的な体験ができること  
が分かりました。作品にしたかったので  
すが、コンピュータの性能に限界があり  
断念しました。3秒の映像を作るのに1  
カ月が必要だったので、間に合わなかつ  
た。

機械の性能が向上したこともあり、2  
年前、プロジェクトを再スタートしまし  
た。ディスプレイをどう配置すれば良い  
のか。仮説を立てて試していきまし  
た。そのうちに、見る人の全身が囲まれてい  
るような、何か浮遊しているような特殊  
な体験をすることができるようになり  
ました。みんなが気持ち良いところまで  
持っていくのに2年間かかりました。ア  
ニメ表現を三次元として再構築した空間  
に身を置く事によって、独特の浮遊感を  
体験すれば、アニメのデフォルメされた



空間表現の持つ論理構造も体で理解できると思います。

## 全役員が佐賀に納税

Q 国内初となるチームラボの大規模な展覧会を佐賀で開催する。佐賀にどのようなイメージを持っているのか。

—— 佐賀には合計50回くらい来ています。気合い入っているなあという印象が強い。とにかく、行くぞ!という感じがチームラボの役員は全員、佐賀県にふるさと納税しています。そのくらい佐賀が大好きです!!!

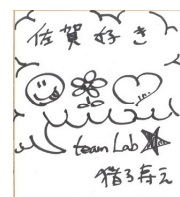
Q 佐賀を面白くするアイデアを教えてください。

—— チームラボとひとつ一緒に仕事をしたら面白くなります(笑)。まずは「チームラボと佐賀巡る! 巡り巡って巡る」

### 読者プレゼント

猪子 寿之さんのサイン色紙を3名様にプレゼント!!

詳しい応募方法はP144へ



展を体験して下さい。とにかく親戚中に電話して、誘いまくりましょう! そうすれば佐賀県民の脳内がバキバキになって、面白いことがどんどん起こってくるに違いありません。

これまでチームラボは台湾や香港、シンガポールなどで作品展示を行って来ました。共通するのは崖っぷちだからこそ、気合いが入っていること。シンガポールは1965年に独立したのですが、半ばマレーシアから追い出されたような状態。初代首相のリー・クアンユーは、苦渋の選択に涙を流しながら独立宣言をしたそうです。そこから「未来に懸ける」という姿勢で教育、経済に重点的に取り組む、今や東南アジアの経済大国になっています。佐賀も、同じような気合いが入っている場所。未来を見据えて、いろんなチャレンジをすれば、道は拓けると思っています。

## チームラボと佐賀巡る! 巡り巡って巡る展





パチツ、パチツ、パチツ。教室に響くハサミの音。原信義先生の手の動きを真剣なまなざしで見守る受講生たち。「楽しい盆栽」教室は緊張感の中にも、どこか温かさを感じさせる独特の雰囲気がある。

「自分ではずっと1年生のつもりでやっています。盆栽は海外では大人気なのに、国内ではなかなか盛り上がりません。特に若い人が少ないのは残念です」と語る原先生は樹木医も務める木の専門家。課外活動で先生自ら決めた集合場所を忘れてしまい、慌てた文化センター女性スタッフをよそに「ま、なんとかなるかかな」と笑っていたという逸話を持つ。おそれからキュ

### 教室に響くのは盆栽を切る音だけ。受講生がすごく集中している講座

1トなキャラクターに女性スタッフの人氣が高い。講座では、受講生の作品を持ち寄り、みんなで講評することもある。受講生は「他の人の作品をいろいろ批評するのは楽しいし、ためになります。原先生は非常に研究熱心で役に立つアドバイスをもらえます。指導も分かりやすいと思います」と教えてくれた。

先生がある程度、はさみを入れ終わると、何の掛け声もなく、自然と受講生が清掃道具を持ち、教室を片付け始める。そして何の言葉も交わさず教室を後にする。まさに阿吽の呼吸。その連帯感が非常に心地よかつた。

「楽しい盆栽教室」第1、2、4土曜日 10:00～12:00 講師/原信義先生



終わって後は1時間以上、お菓子やお茶を持ち寄り、みんなで話し合っています。この講座で知り合った人たちが話合います。英語は...ときどき使うかな?と話すのは「ジエフ」の日常英会話講座。

エフの日常英会話の受講生の話。みなさん。本当に楽しそうに会話を楽しんでいる。

もちろん講座も和気あいあいの。テキスト中心ではなく、普通の雑談が続く。この日、話題になったのは節分。恵方巻きや鬼は英語でどう説明するのか。受講生同士が活発にやりとりする。冬でも半ズボンという元気の講師、ジエフ・ヘイズ先生は

日本語を使わない。受講生が英語で日本の風物を紹介することになる。

続いて、ジエフ先生は「現代のベーターベン」問題について感想を語る。まさに今、話題になっていることだけに、受講生たちのトークも活発になる。ゴーストライターなのか、シャドームュージシャンなのかといった用語の問題もあれば、人気ドラマ「あまちゃん」も劇中で同じような替玉をしていたという感想もあつた。もちろん、その全ては英語。これは力があつた。

エフ先生は世界中を旅していて話題が豊富です。アメリカとイギリスでは表現がどう違うかを、など実際に役に立つことを教えてくれます。先輩の受講生がいろいろアシストしてくれるので、英語に自信がなくても、楽しみながら学習できます」と答えてくれた。



### 中国人よりも中国に詳しくて、いろんな話題を駆使して中国の古典を教える先生

名になっているのでご存じの方も多いでしょう。この詩の「香炉峰の雪は簾を撥て看る」という一節は日本の平安時代の清少納言「枕草子」で引用されていること有名です。中宮定子から「香炉峰の雪はどうであろうか」と尋ねられた家庭教師の清少納言がサツと簾をかかげた、というエピソードです。具体的に指示するのではなく、風流で品の良い会話です。最近夫婦が同じ家にいるのに、メールでやりとりすることもあるそうです。と、といった具合。中国古典というとなつき難い感じがするが、吉原先生の「話芸」で面白くて為になる素敵な講座になっています。

「論語の魅力」第1、3月曜日 10:30～12:00 講師/吉原一寛先生



「ジエフの日常英会話」毎週木曜日 13:10～14:40 講師/ジエフ・ヘイズ先生



「自分が学生のとき、先生が後ろに立ったら、すごく描きづらかった。だから受講生が絵に集中しやすいように、教室には必要最低限しかないようにしています。逆にこちらを受講生の絵を見ていると、ついつい口を出したくなってしまふ。そんなことを考えて、廊下で見守るようになりまして」と大江良二先生は教えてくれた。

### いつも廊下から受講生が絵を描く様子を温かく見守る先生。

かしモチーフに向かい合っているときは、ほとんど何も言わないという。「間違っても良いから、取り敢えずやってみることに目標です。絵を描いていて一番面白いのは、その決断の瞬間。良い絵にすることでではなく、絵を描くこと自体を楽しんでほしいです。受講生が自分で発見する表現は、自分にとっても大きな勉強になります。絵画教室というより共同アトリエでありたいと思っています。」

受講生は「どうしたら良いか分からなくなると、いつの間にか後ろに来てアドバイスをくれる不思議な先生です。きちんと見ていてくれるという安心感があります」と語る。大江先生がいつも廊下から見守っているのは、受講生に自分と挑戦する喜びを伝えるためだ。

「楽しい油絵入門」 毎週水曜 18:30～20:30 「楽しいデッサン入門」 毎週水曜 16:00～18:00  
「楽しい(ステル画)」 毎週火曜 10:00～12:00 「大人の色えんぴつ講座」 毎週火曜 12:30～14:30  
「日曜アトリエ」 毎週日曜 10:00～12:00 講師/大江良二先生

「日本」に関心を持ったのは中国の先生が教えてくれた日本の風習が興味深かったと流暢な日本語で話す、佐賀新聞文化センターのスタッフ申岳さん。生年月日を聞かれて昭和59年と答えるほど、日本生活に馴染んでいるが中国吉林省长春市出身の正真正銘の中国人だ。

申さんが来日したのは高校卒業後の19歳のとき。福岡の日本語専門学校に入学した。「日本の第一印象は清潔な街。故郷の長春市は冬にはマイナス30度になるくらい寒いので、日本は暑く感じました」。その後、佐賀大学に入学。以来、佐賀で生活している。佐賀新聞文化センターに入社したのは2012年。セミナー講座の企画運営のほか、中国語講座を担当している。「この仕事の一番の

### 佐賀新聞文化センターの申さんは、本当に中国人?というくらい日本語が上手

魅力はたくさんある。人に出会えること。他の職場だと、こんなに多くの出会いはないでしょう。また自分の講座の受講生が中国語検定に合格したときは本当に嬉しかったです。」

趣味は運動やキャンプ。6歳のときに卓球の長春市チャンピオンに輝いたという。ちなみに同期にはその後、中国代表として五輪銀メダリストとなる選手もいた。美味しいものに眼がなく、佐賀牛が大好きだという。最後に受講生へのメッセージを。「日本に留学してからの全ての経験が、自分にとっては宝物です。日本と中国を結ぶような存在でありたいと思っています。まだまだ日本語が完璧ではないので、受講生のみならずにはご迷惑をかけるかもしれませんが、温かく見守っていただけたら嬉しいです。」

「楽しく学ぼう!中国語入門(夜) 武雄」 毎週月曜 19:30～21:00  
「中国語中級」 毎週木曜 18:30～20:00 講師/申岳先生